

## 全国遺跡報告総覧説明会の開催

2017年9月から2018年2月にかけて、報告書データベース作成に関する説明会を全国5ヵ所で開催しました。報告書電子化及び全国遺跡報告総覧(以下、遺跡総覧)への登録に関する実務を説明し、発掘調査報告書の一層の活用促進をはかることにより、埋蔵文化財の普及公開に資することを目的として実施しました。説明会は、主催を奈良文化財研究所、共催に全国遺跡報告総覧プロジェクト・島根大学・東北大学・岡山県古代吉備文化財センター・岡山大学、後援に文化庁・全国埋蔵文化財法人連絡協議会・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・福岡市という枠組みで、各機関から支援を賜りました。

各回の説明会では、文化庁文化財部記念物課の調査官による基調講演にて、報告書のデジタル対応についての動向が述べられました。続いて遺跡総覧の事務局からの案内として遺跡総覧の機能解説と今後の可能性、データ登録の実務的な説明をしました。そして既にデータ登録を推進している機関から事例報告をおこない、最後の質疑応答では、事前に会場から回収した質問票を整理しながら、各講師が回答し、疑問点の解消がはかられました。

説明会の参加者は、文化庁行政関係者を中心に5回で合計241名の参加がありました。参加者からは「著作権について理解が深まった」「印刷物と低精度PDFの位置付けが理解できた」「報告書の公開方法等今後の参考になった」との感想をいただきました。予稿集をWEB公開していますので、ぜひご覧ください。

(企画調整部 高田 祐一)

全国遺跡報告総覧 (<http://sitereports.nabunken.go.jp>)



報告書データベース作成に関する説明会(東北大学)

## 新木簡データベース「木簡庫」の公開

2018年3月、奈良文化財研究所がこれまで公開してきた「木簡データベース」(1999年公開)と「木簡字典」(2005年公開)の統合が実現し、それぞれの利便さはそのままに、より使いやすいデータベースに生まれ変わりました。名付けて「木簡庫」。「木簡庫」には次のような特徴があります。

**1.木簡を検索するデータベースと、木簡の文字(画像)を検索するデータベースの共通の入口** テキスト情報を中心に木簡を検索する「木簡をさがす」(旧木簡データベース)と、画像を中心に木簡の文字を検索する「木簡の文字をさがす」(旧木簡字典の機能)を、同じ画面から選択して利用できます。

**2.テキスト表示と画像表示の相互移動機能** 「木簡をさがす」の検索結果一覧(テキスト表示)と、「文字画像をさがす」の検索結果一覧(文字画像表示)の間を、相互に往き来することができます。

**3.木簡の大きさや年紀の範囲指定検索機能** 従来「木簡字典」にしかなかった木簡の大きさや年紀についての範囲指定検索や、出典・遺跡名・型式番号等による検索結果のソートを可能にする等、検索機能を強化しました。

**4.様々な絞り込みやリンク機能** 検索結果一覧からの属性による絞り込みや、個々の木簡の詳細データ画面からの同じ属性をもつ木簡の再検索機能、あるいは出典文献のPDFへのリンク等、当該木簡の周辺情報の閲覧が便利になりました。

従来の木簡データベースや木簡字典と同様に、広くお使いいただき、忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。なお、「古代地名検索システム」も木簡にみえる地名を加えてリニューアルオープンしました。(副所長 渡辺 晃宏)



「木簡庫」のトップページ

(<http://mokkanko.nabunken.go.jp/>)